家族インタビュー[山本案規子さん]

インタビュアー　中越優　　記録　戎脇美奈子

認知症とは思っていなかった

中越　お父さんと同居する経過はどうだったんですか。

山本　母が亡くなって 1 年位和歌山で一人で住んでいたんです。その内に商売を止めて、戸が閉まったままになったのを近所の人が心配して連絡をくれたり、父からは〇〇が無くなったと言う電話がかかるようになったんです。
そこで東京の私の弟の家に引き取られたんですが、父が和歌山に帰りたいと何度も言い出し、更に弟の嫁の親も同居していた事もあり、3 ヶ月後に私が引き取ることになりました。その時の夫の「引き取ったら」との声が大きな力になりました　。

中越　それはとても大きいですね。いつ頃ですか。

山本　平成 10 年 12 月です。家では散歩とか新聞、テレビを見て暮らしていました。知り合いもない土地で人との接触の少ない生活なんで、認知症が進んだかもしれませんね。その時は分りませんでしたけど。元気だったんで散歩は少し遠くへも出かけ、始めは帰ってたんですけどその内帰りが遅くなったり、迷子になったようだけど、人に聞いて助けてもらって帰っていたようです。それで名前や連絡先を書いたカードを持たせました。

中越　人に聞く事が出来てたのが好いですね。始めは足がとてもしっかりしてたから、遠くまで行ったやろうね。

山本　阿武山公団や日赤方面へ行ったり、西武で和歌山に帰りたいと言って高槻駅の交番に保護されたりしました。一度和歌山駅まで行って保護された事もあったんですよ。どうやって行ったのか、お金が全然減ってませんでしたからヒッチハイクでもしたのかしらねー。

中越　ほんとう!? どうして行けたのか不思議やねー。ところで認知症として治療した事ありますか。

山本　かかりつけ医(内科)も「はっきり原因分らんね。一度検査が必要かも」と言ってましたが、高血圧の治療だけでした。

絶対にデイに行かない人

中越　「はむろ」に来るようになったのは平成 14 年の秋でしたね。デイサービスへの抵抗はありませんでした ？

山本　父は短気で曲がった事が大嫌い。だから人との接触はうまく行かないと、絶対にデイには行かない人だと思ってました。それに認知症とはハっキリ思ってなかったから、時々新宮につれて帰ることでバランスを取れると思って

いたんです。でも医者に環境を変えるのは良くないと言われ、それで知人の勧めで「はむろ」に行ったんです。そしたら本当に抵抗なくすっと行ってくれて…、私の思い込みだったんですね。

中越　やって見るもんですね。その知人が「はむろ」のスタッフなんで、案規子さんの安心感が伝わったのかな。でも始めは「新宮に帰る」といつもソワソワ落ち着かなかったですね。

山本　そうなんです。「帰りたい、帰りたい」というので、「そんな誰も居らんところに帰ってどうするの」とよく怒っていました。そんな時なかなかおだやかに接する事は出来ませんでしたね。

理屈で納得させようと

中越　私達もはじめは同じでしたね。理屈で納得させようとしてました。「新宮は遠いよ」「もう誰も居ないよ」「どうやって帰るの」等とむしろ不安をかき立てていましたからうまく行きません。時々姿が見えなくなってヒヤッとすることもありました。一人で不安なのか仲の良い T さんを誘って、よく帰る相談をしてましたね。そこで、帰りたい気持に沿って一緒に外出し、散歩しながら気分が落ち着くのを待ったり、忘れた頃を見計らって帰ることもよくありました。一つ一つ悩み、工夫して学んだ事が多かったですね。

山本　父との葛藤ややり取りを見ていて、子供や夫に「なんで怒るの、そこまで言うの ?」と言われました。嫌だったらしいです。

中越　確かにいらいらしますもんね。また時々「うるさい」とか「〇〇したらあかん」と少し潔癖に言われてたけど、でも「はむろ」はうるさいのは事実だし、そんなに違和感なかったですよ。むしろ、人との関係に気を使って、そして絶妙のタイミングで「あーりがーとさん」と言って雰囲気を和ませ、「はむろ」のアイドルになって行きましたね。

山本　その頃は、もう朝早くからソワソワして、迎えが来ると待ってましたとばかり喜んで出かけてました。デイでは迷惑をかけるとばかり思ってたから、でも「はむろ」だから馴染めたのかなあ。父の言葉が「帰りたい」から「すまんのう」となって行き、最後は「ありがとう」に変わっていきました。

中越　皆でよく歌を唄うんですが、その時お父さんは必ずテーブルを指で叩いて、そのリズム感がすごく良かったですね。

山本　歌は好きでしたね。町内会長や組合長など世話好きで、人前に出るのは好きでした。ただ、音程が下がったりしてました。

夕焼け小焼け

中越　そうですか。リズムだけであまり歌わなかったけど、「夕焼け小焼け」の

時だけはしっかり唄って、よく感激して涙を流してましたね。とっても印象的でした。

山本　なんででしょうね。リズムを取る事もそういう父は見たことがないですね。

中越　「夕焼け小焼け」はデイの終わりに皆で唄って、さあ帰りましょうと毎日の習慣になっていますよ。お父さんの影響大です。ところで、休日が続くときは家ではどう過ごしてました？

山本　デイに行っている日は帰っても落ち着いてましたが、連休になると辛かったですね。足が衰えてから「帰る」とは言わなくなりました。去年夏頃から、テレビや新聞に集中できなくなり、こけたりしだしました。じっとしてないんです。外で徘徊したり、暴力などはなかったんですが、トイレが近くなりました。夜中に何度も起きたり、床の間や縁側、ストーブ等部屋の中で小便するようになりました。ほんとに大変でしたね。トイレを間違えていると思い、夜電気をつけっぱなしにしたり、入口にトイレと大書したり、戸に鈴をつけて出入りが分るようにしたりと工夫しました。一時期は効果ありましたね。よくこけるようになってからは私が一緒に寝るようになりました。

中越　それは辛かったですね。他に大変だったことは？

山本　風邪薬を飲んで「誰かが来ている」と幻覚で目がさえて寝れなくなったり、便秘薬で便を出す時間の調節の難しさなど色々ありました。

中越　そうした大変な状態が続くとストレスが溜まりますよね。どう解消してましたか。

パニックになることも

山本　家族の協力や「はむろ」の協力がなかったら出来ませんでしたね。父との間でパニックになっていったときは、週一回外出して友達と会うことでストレスは発散してました。家で閉じこもらずになんでも相談できれば、ノイローゼになって家族に迷惑かけずにすみますよね。

中越　気楽に相談できる事がほんとに大事ですよね。ところで「はむろ」は土曜日が休みなので、他の施設にお世話になってましたね。

山本　慣れないときは少し落ち着かないときもあったけど、助かりました。本音を言うと、「はむろ」が土曜日にやってくれたら良かったとは思います。

中越　すみません。それが今後の私達の課題です。

山本　でも、大病せず、元気に自宅で過ごし、老衰で眠っている間に亡くなりましたから、幸せだと思います。

中越　良くする会の理念である「在宅で安心して過ごす」のモデルのような終末の迎え方ですね。とても感慨深いものがあります。亡くなられた日の夕方、

ご家族だけの密葬と伺い、仕事が終わってから大勢で押しかけて、はむろ葬だと勝手に盛り上がり(?)ましてすみませんでした。

山本　いやいや、本当に感慨深く、思わず号泣してしまいましたか、うれしかったです。家族や遠くから帰った者が何事かと驚いていました。ありがとうございました。

中越　最後に、介護する家族にとって、同じような悩みを持つ家族の方々との経験の交流があるととても助かると考え、家族の会のようなものを企画しようと思うのですが、どう思いますか。

山本　私はこうして色々助けていただいて良かったですが、相談するところが少ない家族にはとても助かると思います。

特集「家族インタビュー」を終わって

介護をするご家族の苦労には、人には言えないような大変さや辛さがあると思います。そんな中で山本案規子さんは、かなりの思いを話していただき本当に感謝します。公表するわけですから、本当に辛いところはなかなか言えないところもあると思います。そうだとしてもやはり体験を共有する事には、学ぶ事や慰めや癒しの働きがあると考えます。特に、介護を中心に担う方がストレスが溜まって、その上相談できる人があまり居られない場合に、情報不足で不安がひろがり悩みが堂々めぐりとなり、孤立してノイローゼになることもあり得ます。支援する立場から見ると、ご家族の大変な思いが見えなかったり、利用者と家族と支援スタッフの思いがバラバラで食い違ったままだと、良い結果が得られない事になります。

今後、こうした家族インタビーや家族同志が体験を交流しあって学び、支えあっていけるような場を作りたいと願っています。　　(中越　優)